

2010.3.29

国立西洋美術館 常設展鑑賞ガイド  
iPhone アプリケーション “Touch the Museum” について

独立行政法人国立美術館  
国立西洋美術館

国立西洋美術館が開発してきた新しい常設展ガイドが、2010年3月31日、「国立西洋美術館公式 iPhone アプリケーション Touch the Museum」として、Apple の iTunes Store 内 App Store にて無料でリリースされる運びとなりました。

この “Touch the Museum” は、事前に iPhone または iPod touch の端末にダウンロードして来館いただき、国立西洋美術館の常設展示室で実際の作品を目の前にしながら鑑賞ガイドとして利用していただくためのアプリケーションです。

コンテンツは、他の美術館に所蔵されている作品の画像や、NHKアーカイブスからの資料映像などを活用して制作されており、既存の「音声ガイド」とは異なって、関連する画像／映像による解説を試みている点で特徴的です。さらに、館長や研究員・建築史家による、臨場感あふれる解説なども収録されています。画面に現れる作品画像を、指先で触れるようにして選ぶことで、容易にコンテンツを呼び出すことができます。

この iPhone アプリケーションは、日本の国立美術館としては初めてのものであり、さらには世界的に見ても、いまだ稀な美術館の鑑賞ガイドシステムといえます。

○アプリケーションの概要

名称： 国立西洋美術館公式 iPhone アプリケーション  
Touch the Museum ver.1.0  
リリース日： 2010年3月31日  
価格： 無料で配布  
対応端末： iPod touch, iPhone 3G, 3GS(OS3.0 以上)  
発行元： 国立西洋美術館  
制作： 監修＝国立西洋美術館  
コンテンツ制作＝(株) NHK エデュケーショナル  
アプリケーション開発＝(有) シネティクス



## ○特徴、コンセプト

- これまでの「音声ガイド」を越えて、画像／映像のアーカイヴを利活用した、新たな美術館鑑賞ガイドを提案。
- 日頃使っている iPhone/ iPod touch に手軽に DL できる美術館ガイド。それを通じて来館者個々が、美術館に関心を向けるための新しい回路となることを期待。
- iPhone/ iPod touch の中だけで完結しない体験を重視。端末上の仮想美術館に留まらず、あくまでも実際の作品との出会いをうながすための試み。

## ○コンテンツについて

- 総コンテンツ：57 本
  - (館長 青柳正規による案内：2 本、所蔵作品解説：48 本、本館建築の解説：7 本)
  - ・ 本館／新館の入り口では、館長・青柳正規による「お出迎えメッセージ」を用意。
  - ・ 研究員 6 人がそれぞれ専門とする作品を前にして解説するコンテンツも収録。
  - ・ 現在、世界遺産候補であるル・コルビュジエ設計の本館建築について、7 つのポイントで藤森照信氏（建築家・建築史家）に現場を示しながらの具体的な解説を依頼。
- 内容時間：基本的にすべて 1~2 分程度。
- 画像／映像を用いる際の工夫：
  - ・ 展示室内での実際の作品鑑賞を前提としたコンテンツであるため、音声と画像／映像の配分に工夫を行った。音声解説の間は、目の前の実作品に集中していただくため、端末画面には無意味なアニメーションを流し、映像／画像を提示する時のみ、「端末をごらんください」とのナレーションとともに、鑑賞者の視線を端末画面へ誘導する。
  - ・ 解説の内容は可能な限り簡潔にし、「目で理解でき記憶に残ると思われるポイント」を重視。

### 【コンテンツの内容例】

#### ■ペーテル・パウル・ルーベンス《眠る二人の子供》

…プライベートなスケッチとして描いた二人の子供の顔を、ルーベンスはまったく同じ表情で、宗教画《花輪の聖母》（ミュンヘン、アルテ・ピナコテーク）の天使に転用している。比較画像を用いながら説明。

#### ■ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ《ヴィーナスによって天上に導かれるヴィットール・ピサーニ提督》

…この作品は、イタリア・ベネチアにあるピサーニ邸の天井画の習作。NHKアーカイブス映像を二次利用して、実際のピサーニ邸とその天井画を紹介。

#### ■カミーユ・ピサロ《立ち話》

…「絵の中心は緻密に、周辺部は荒いタッチで描かれている。これはカメラが物をとらえるのと同じ仕組み」という視点で、ピサロの造形の特徴を説明。実作品を前にして、学芸課長・村上博哉が解説する。

### 【コンテンツの詳しい内訳】

本館 1 階（19 世紀ホール）：館長のお出迎え 1＋ロダン彫刻 3＋ル・コルビュジエ建築解説 3

本館 2 階（14 世紀から 19 世紀までの絵画）：

絵画解説 16＋ル・コルビュジエ建築解説 4

新館 2 階（印象派の絵画）：館長のお出迎え 1＋絵画解説 6

新館 2 階（モネの部屋）：絵画解説 5

新館 1 階（後期印象派以降）：絵画解説 15＋ロダン彫刻 1

屋外（彫刻の庭）：ロダン彫刻 2

\*映像資料についてはNHKアーカイブ所蔵のものを二次利用している。また、他館が所蔵する作品のデジタル画像は、アマナ・イメージズ、DNPアーカイブスなどから購入。近年における画像／映像アーカイブの充実が、今回のコンテンツ制作を可能にしている。

### ○開発の経緯

国立西洋美術館では、2006 年度以来、新しい美術館鑑賞ガイドの開発に取り組んできた。

#### ■2006 年 5 月

「ウエル.com 美術館プロジェクト」の名称で、ユビキタス・コミュニケーターを鑑賞端末にもちいた実証実験を実施。

■2006年11月

「ウェル.com 美術館プロジェクト」第二弾として、ニンテンドーDSを鑑賞端末にもちいた実証実験を実施。

■2007年度／2008年度

「美術展示物の鑑賞を助ける音声・映像案内の高度化にかかる調査研究」を文化庁から受託、研究を実施。

■2009年2月

上記調査研究の成果として、「Touch THE MUSEUM β——映像と音でめぐる常設展」の名称で、iPod touchを鑑賞端末にもちいた実証実験を実施。

■2010年3月31日

「国立西洋美術館公式 iPhone アプリケーション Touch the Museum」リリース。実用化サービス開始。

館長からのメッセージ

わたしが「デジタル・ミュージアム」の構想を持ったのは、1996年5月、当時勤務していた東京大学に総合研究博物館を設立した時でした。「世界で初めてのデジタル・ミュージアムを」と意気込みましたが、当時それを実現するには巨大なコンピューターの導入が不可欠であるなど、美術館／博物館の風景を変えてしまうような大仕事が必要でした。

時代が流れ、ダウンサイズされ使い勝手のいいシステムが登場しました。美術館にちいさな端末を持ち込むだけで、「展示室では見られないもの」が目の前に現れ、美術鑑賞に新しい情報や切り口を与えてくれるのです。この新しい鑑賞ガイドが、ひとりでも多くの方に美術館を「楽しい場」だと感じていただけるきっかけになることを、心から願います。

この十数年来、「マルチ・メディア」などたくさんの新しい良い言葉が誕生しましたが、その多くが既に死語となりました。それは、関わる人の多くが技術に走りすぎ、肝要なコンテンツが我々の感動を引き寄せることができなかつたからではないかと思えます。

我々は、今回提供するコンテンツに「こころざし」を込め、心をこめて制作いたしました。「デジタル」を「ヒューマン」に近づける試みに、歩をすすめたと自負しております。

国立西洋美術館  
館長 青柳 正規

○ お問い合わせ

国立西洋美術館

電話：(03)3828-5131

E-mail：wwwadmin@nmwa.go.jp